

村上たつま

市政報告 REPORT



Photo: 後呂健児(お写真処 猫の額)

●自由民主党神戸市会議員団・無所属の会 市政報告(兵庫区版)《令和7年決算議会号》

【発行】自由民主党神戸市会議員団・無所属の会 / 神戸市中央区加納町6-5-1・TEL.078-322-5846 HPはこちら

略歴

- 平成4年11月6日生 A型
- みなと幼稚園卒 会下山小学校卒
- 湊川中学校卒(野球部) 兵庫高校卒(98陽会、野球部)
- 兵庫県立大学経済学部国際経済学科卒
- 早稲田大学大学院政治学研究科修了(公共経営修士)
- 元久保田学園講師 港湾資材会社役員 空手道黒帯取得
- 平成31年4月神戸市会議員選挙当選(1期目)最年少議員
- 令和5年4月神戸市会議員選挙再選(2期目)最年少議員

現職

- 神戸市会議員(兵庫区選出)2期目
- 海事代理士(日本海事代理士会神戸支部所属)
- 神戸青年会議所会員
- よみがえる兵庫津連絡協議会会員
- 武陽野球倶楽部(兵庫高校野球部OBOG会)事務局長

村上立真 / プロフィール

実績TOPIC(一部)

神戸空港から東アジア以外への就航可能性を明確化!

神戸空港では、今年4月から東アジア各地への国際チャーター便がスタート。週40便が高い搭乗率で運航され、神戸空港の利便性とポテンシャルが改めて評価されています。一方で、「滑走路が2,500メートルだから5,000キロまでしか飛べない」といった誤った情報が一部で広まっていた。村上たつまはこの誤解を正すべく、議会で港湾局に対して質疑を行い、滑走路の長さだけでは航続距離は決まらないことを明確に確認しました。

港湾局からは、「滑走路が2,500メートルだから5,000キロまでしか飛べないというのは誤り」という趣旨の答弁を引き出すことができました。これにより、神戸空港が東南アジアやオセアニアを含むさらなる国際路線の就航を目指せることが明確になりました。今後は、関西エアポート神戸や地元経済界、行政が一体となって、新たな路線誘致に取り組む体制づくりを後押ししてまいります。



決算特別委員会港湾局審査における質疑

万博のレガシーを兵庫区へ!

先月ついに閉幕した関西万博。パラオ共和国のバビリオンで実際に展示された品々を用いての特別展を兵庫区にある県立兵庫津ミュージアムで行う計画について、大統領や大臣及び大使にご承認いただきました。村上たつまとかねてより親交の深い同国のご協力で万博のレガシーを兵庫区の皆様に来年中にはお見せできる予定です。



大使および関係者と打ち合わせ

市政に関するお困りごとをお気軽にご相談ください。

神戸市会議員 村上立真事務所

〒652-0046 神戸市兵庫区上沢通1-1-1 米澤ビル1階 / TEL.078-599-7760・FAX.078-336-3572

E-mail: murakami.tatsuma@gmail.com

《裏面に続きます!》



市政相談フォーム

議会活動より(一部)

一般質問

港で新たな雇用を! 六甲アイランドから神戸経済を動かす

神戸の港が、もっと地域の雇用と産業を生み出す場所へ。村上たつまは、六甲アイランドRC-4・5地区の再編にあたり、流通加工や組立などの機能を備えた複合ターミナルの整備を提案しました。

この提案を受け、市は港湾機能の強化と高付加価値な産業拠点づくりを進める方針を表明。従来の「貨物を運ぶだけの港」から一歩進み、新たなビジネスモデルを展開します。これにより、港湾関連の雇用拡大や地域経済の活性化が期待されます。神戸港の強みを最大限に生かし、次世代の港を目指す取り組みをリードしてまいります。



議会での
質疑動画はこちら

人もモノも動く神戸空港へ! 国内線の未来を守る提案

神戸空港の国内線利用者数は過去最高を更新する勢いがありますが、人口減少やコスト上昇で航空会社の国内線経営は厳しさを増しています。村上たつまは、こうした状況を踏まえ、インバウンド(訪日客)需要を国内線にも取り込み、地方空港との連携を強化すべきと提案。市はこれを有効な施策と認め、国内線維持・拡大に向けた取組を進める方針を示しました。さらに村上たつまは、国内線での小口貨物輸送の導入も提案。副市長からは「地域間交流を活性化し、新たなビジネスチャンスにつながる」との前向きな答弁がありました。神戸空港を“旅客だけでなく、物も動く空港”へ、空のネットワーク拡充を後押ししています。



一般質問の様子

決算特別委員会局別審査

【文化スポーツ局】

コベカツでの市所有施設活用の拡充を提案

中学校部活動の地域移行「KOBE◆KATSU」の円滑な実施と、子どもたちの活動環境向上を積極的に議論しました。特に、吹奏楽部や野球部など多くの中学校に現存する活動では地域移行によるメリットが実感しづらいです。村上たつまは、こうした課題を踏まえ、長田区のピフレホールを活用した平日夜間の実証実験を評価し、市が所有するホールやグラウンドなどの施設をより多くのコベカツクラブが利用できるよう提案しました。この取り組みにより、これまで学校単位では難しかった充実した練習環境を子どもたちに提供できるようになり、活動の質向上や新しい経験の場として期待できます。今後も、市の文化スポーツ施設を最大限に活用し、子どもたちが安全で楽しく充実した活動ができる環境づくりを進めてまいります。



決算特別委員会文化スポーツ局審査における質疑

【港湾局】「分散型花火」で神戸の夜に新しいにぎわいを!

神戸港の夜を彩る「みなとHANABI」は、従来の1日型花火大会から、平日5日間に分散して開催する“分散型花火”へと進化しました。混雑を避け、ゆったり楽しめるだけでなく、平日の夜に人が集まり、ホテルや飲食店の利用が増えるなど経済効果も生まれています。従来は経費のうち花火に使われたのはわずか6%程度でしたが、分散型では倍以上に改善。協賛企業も年々増加しています。村上たつまは、増えた協賛金収入を単に市の負担軽減に使うのではなく、さらに花火の充実や夜のにぎわいづくりに活かすべきと提案しました。神戸の夜をもっと楽しく、美しく。これからも取り組みを進めてまいります。

経済港湾委員会

市民の声を受けて、ポートアイランドスポーツセンターのプール再整備を丁寧に推進

村上たつまは、ポートアイランドスポーツセンターのプール再整備について、市民からの期待が高まる中、工事の進捗や今後のスケジュールについて丁寧に分かりやすい説明を行政に求めました。これにより、文化スポーツ局は、令和7年度の整備内容や工法、スケジュールの再検討を進める際に、議会や市民への説明を徹底する方針を明確化。村上たつまは、市民と議会に安心感を届ける行政対応の徹底を求めました。



経済港湾委員会における質疑